

# 日本ESD学会ニュースレター第5号

2020年5月23日

編集発行：日本ESD学会事務局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学次世代教員養成センター 中澤静男研究室

TEL/FAX:0742-27-9269 E-mail: jsesd.office@gmail.com Website: <http://jsesd.xsrv.jp/>

## 目次

持続可能な社会に向けて今こそESDを	… 1
‘ESD for 2030’ に向けて	… 2
第3期会長・会計監査・評議員選挙の結果	… 3
日本ESD学会第1回四国地方研究会の報告	… 3
日本ESD学会第2回東北地方研究会の報告	… 5
日本ESD学会第4回近畿地方研究会（オンラインシンポジウム） 開催のお知らせ	… 6
日本ESD学会第3回大会開催のお知らせ	… 6
日本ESD学会誌『ESD研究』第3号発行スケジュール	… 7
「若手の会」よりお知らせ	… 7
事務局からのお知らせ	… 8

持続可能な社会に向けて今こそESD（持続可能な開発のための教育）を

2020年4月14日

日本ESD学会 理事会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的な拡がりを見せ、終焉の兆しが見えません。14世紀のペスト、19世紀のコレラ、20世紀のスペイン風邪などの流行は人類史上、混乱と停滞を招きましたが、21世紀早々の重症急性呼吸器症候群（SARS）と今回のCOVID-19の流行は持続可能な社会づくりを怠ってきた人類に対する警告と受け止めるべきかもしれません。

ウイルスに国境はありません。ユネスコによれば、世界中で学校の休校措置により15億人を超える子どもたちの学習する機会が失われています（<https://en.unesco.org/covid19/educationresponse/globalcoalition>）。教育だけでなく、SDGsの17のGoalすべてがCOVID-19によって一時的にでも停

滞ないし後退させられる状況になっています。このような時こそ、持続可能な開発のための教育(ESD)の重要性について再認識したいと思います。ESDは持続可能な社会づくりのための課題を一人ひとりが自ら考え、行動する人を育てる教育です。COVID-19を克服して、誰一人取り残さない、共に生きる持続可能な社会の実現をめざして、ESDを推進することが今こそ求められます。

## ‘ESD for 2030’ に向けて

国境を越えた運動として誕生したESDは新たな局面を迎えています。2020年6月にはドイツのベルリンに於いて「持続可能な開発のための教育:SDGsの達成に向けて」(以下、‘ESD for 2030’ と略記)をテーマにユネスコ世界会議が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受け、日程が未定のまま延期が余儀なくされています。まさに不確実性の真ただ中で私たちはESDの意味を問い直すことを求められているのかもしれません。

これまでも1992年の地球サミット(国連環境開発会議)で教育の重要性が謳われたことを契機に、その後も国際舞台で教育の果たす役割が注目されるようになりました。2015年9月、ニューヨークの国連本部にて採択された持続可能な開発目標(SDGs)の実現においても教育がすべての目標に関わり、持続可能な社会づくりには不可欠であることを共通認識として捉えられるようになっていきます。

ESDを主導する国際機関であるユネスコの文書を読み解くことは、ESDの実践者および研究者にとっても重要な道標でもあり、批判的に検討することで、日本独自のあるいは各地域、各学校独自のより良い教育のあり方を構築する手がかりにもなり得ることでしょう。

「国連ESDの10年」(2005-2014年)、その後「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(以下、GAPと略記)」(2015-2019年)が推進されてきました。そしてGAPの後継的な位置づけとして、2019年12月に第74回国連総会で新たな枠組みである‘ESD for 2030’が3年以上もの歳月をかけて策定されました。世界各国の研究者や実践者、一般市民の多くの声が反映されています。

‘ESD for 2030’には、これまでのESDを振り返りつつ、特にGAPで期待されていたESDのスケールアップが図れなかった点に関する考察と、より具体的な内容に踏み込んで2030年に向けた教育の展望が盛り込まれています。GAPにおいて、価値観、行動、ライフスタイルの変容については言及されていましたが、‘ESD for 2030’ではさらに従来の思考・行動・生活様式からの「脱却(ディスラプション)」という表現を用いてその必要性を強調しています。表層的な変容ではなく、個人の価値観、行動、ライフスタイルへ変容をもたらす、アクションとして表出するような深層的な変容を主唱しています。果たして、このような変容はいかにしてもたらされるのでしょうか。2030年に向けて創る社会には、いまだどのような学びと教育が求められているのでしょうか。

なお、学会誌第3号において‘ESD for 2030’の策定過程に従事した永田佳之会員(聖心女子大学)による‘ESD for 2030’の概要および日本の教育現場の現状と課題について論考が掲載される予定です。その論考が実践者と研究者との対話を深め、ESDの深化へとつながる機会となることを祈念し、筆者も研究に邁進してまいります。

神田和可子(聖心女子大学大学院)

### 第3期会長・会計監査・評議員選挙の結果

2020年3月31日

日本ESD学会 第3期会長・会計監査・評議員の選挙結果を以下のように公示します（敬称略）。任期は2020年度総会から2022年度総会までです。

有効投票数 125 票、無効票 25 票

会長：見上一幸

会計監査（2名）：柴尾智子、安田昌則

評議員（25名）：阿部治、飯田貴也、池田満之、石丸哲史、市川智史、遠藤宏紀、大塚明、大西浩明、加藤重治、川田力、北村友人、河野晋也、河本大地、小西美紀、島俊彦、高倉洋美、竹内よしこ、辰野まどか、田淵五十生、長友恒人、西口美佐子、二ノ宮リムさち、室貴由輝、山下邦明、湯本浩之

日本ESD学会選挙管理委員会  
委員長 高橋豪仁

### 日本ESD学会第1回四国地方研究会の報告

第1回四国地方研究会は、2020年1月25日（土）に愛媛県松山市教育研修センター事務所にて開催された。四国地方の会員数が非常に少ないため、今回は会員・非会員の枠を越えてESDについて学び合い、交流を広げることを目的とし、名称も「ESD 研修交流会」とさせていただいた。当日は、愛媛県内を中心に全国各地から180名の参加を得て盛大に開催することができた。参加者は、小・中・高・大の教職員、研究者、高校生、大学生、大学院生、NPO、企業、自治体関係者、一般市民と多様なステークホルダーが集まり、ESD やSDGs に対する関心の高さがうかがえた。開会に際しては、長友恒人学会長から四国地方からのさらなる発信や研究推進に向けて期待する旨の言葉をいただいた。

本研究会のテーマを「ESD/SDGs で実現する深い学び」とし、特に学校現場からのニーズに応える形で、それぞれの立場での取組やつながりを考える機会とすることを意識して3部構成のプログラムで開催した。

第1部の基調講演では、聖心女子大学教授の永田佳之先生に「ESD とは何か：2030年に向けた教育の学びの方向性とエッセンス」という演題で、ご講演いただいた。先生は、「非学会員も参加しており、ESD について十分理解できていない者のために、基礎的な知識の提供も含めて最新の動向を伝えていただきたい。」という主催者側の無理なお願いを快く引き受けてくださり、非常に明快で分かりやすく、またESD を実践していく上で希望が持てるようなお話をしていただいた。講演は、始めに生物多様性や環境破壊・危機の話から入り、ESD の重要性について触れられた後、本研究会が開かれる1ヵ月前に国連総会で採択されたばかりの「ESD for 2030」について、その採択までの流れやエピソードをちりばめ

ながら、そのエッセンスについて、「Disruption」「System-wide Approach Systemic Level」「Transformative Action」「Citizenship in Action」「Culture of Sustainability」の5つをキーワードとして、具体的にご教示いただいた。その後、ESDのこれまでの歩みを振り返りながら、「①ホールスクール、②アプローチ、③本気で変わる、深い次元で変わる」の3つをSDGsの成否を握るESDの課題として挙げられ、それぞれについて、私たちが何をすればよいのかについて示唆に富むお話をさせていただくことができた。プログラムの関係で70分という講演時間を設定したが、とても短く感じるほど参加者は熱心にメモを取り、永田先生のお話に耳を傾けている様子が印象的であった。

第2部は「学校教育でESD/SDGsによる深い学びを実現するには？ ～四国（愛媛）での取組をもとに～」として、ESD/SDGsに関する愛媛県内3名の取組発表とフロアを交えてのミニディスカッションを行った。竹下浩子会員（愛媛大学教育学部）からは、消費者教育に関連して作成した教材「SDGs 食堂」を用いた授業開発や教員研修の取組について報告していただいた。矢野誠治氏（新居浜市教育委員会事務局学校教育課指導主幹）からは、全市小中学校がユネスコスクールに登録されるまでの動きや現在の取組状況、教育委員会としての支援、地域と一体となったSDGsの担い手育成について伝えていただいた。竹内よし子会員（NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表理事）からは、氏の運営する団体が実施しているモザンビーク共和国への支援活動について、地域のNPOとして学校教育とどのように関連付けてESDを進めてきたかについて紹介していただいた。フロアからは、具体的な進め方や連携の在り方などについての質問が出るなど、短い時間ながら活発な協議がなされた。

第3部の分科会では、ワークショップ型研修や愛媛県内高校生による課題研究発表、学会員による自由研究発表など、合計4つの分科会を実施した。学会員による自由研究発表（口頭発表）の分科会では4名の会員に発表をしていただいた（幼稚園2件、中学校2件、大学関係1件）。発表内容は、それぞれの授業や活動の中に、どのようにESDやSDGsの視点を入れ込んでいくかについての工夫や成果に関するもので、参加者にとっては参考になる部分が多かったように思う。

今回、初めて四国地方で実施した研究会は非常に有意義なものとなった。学会の皆様のご理解とご支援・ご協力により開催することができた。関係者の皆様、参加者に深く感謝申し上げます。



文責：藤原一弘（愛媛大学）

## 日本ESD学会第2回東北地方研究会の報告

日本ESD学会第2回東北地方研究会は、2020年2月8日（土）の13時から17時まで仙台の宮城教育大学210教室で開催された。

開催にあたって、大杉住子・日本ユネスコ国内委員会事務局次長および、小澤紀美子・日本ESD学会副会長よりご挨拶を頂戴したのち、以下の内容で9つの実践発表・研究発表が行われた。

第一部のコンソーシアムのESD for SDGsカリキュラム・プログラム発表会では、1. 岩手県平泉町教育委員会指導主事の佃智之氏が、世界文化遺産の町平泉では、現世浄土のまちづくりを進めた先人の思いや歴史を学び、伝統文化などの地域の宝を受け継ぎ、すべての町民が学ぶ「全世代型平泉学」を推進していることについて話された。

次に、2. 宮城県気仙沼市教育委員会 副参事（指導主事）小野寺裕史氏は、気仙沼市では、これまでの実績を生かしながら、今後は、持続可能な社会づくりについて考えることの価値に触れる体験的で探究的な活動を展開し、未来の社会に生きる「未来人」として必要な教養である「思考の習慣化」を図ることを目指していることについて話された。

3. 宮城県大崎市世界農業遺産推進課自然環境専門員 鈴木耕平氏は、世界農業遺産大崎耕土を「守るために活かして」いくために人材育成は不可欠で、2020年度から小学校3～6年生の全員に「世界農業遺産副読本」を配布し、学校教育の中で大崎の魅力学ぶ機会を設け、地域への理解を深める取り組みを進めていることについて述べられた。

4. 福島県只見町教育委員会教育長の渡部早苗氏は、2013年にユネスコエコパークに認定された。ユネスコエコパークの理念である「人間と自然の共生」を推進しながら、持続可能な発展のできるまちづくりを目指していることについて紹介された。

第二部の研究・実践報告会では、1. エコパークを活用した取組として、信州大学特任教授の渡辺隆一氏、2. 仙台市秋保地域の取組として、仙台市立秋保中学校校長千葉慎一氏、3. 福島高専におけるESDの取組として、福島高専グローバル化推進センター長の加藤明子氏、4. 多賀城高校・仙台第三高校におけるESDの取組として、仙台第三高等学校校長の佐々木克敬氏、5. ドローンを活用した教材開発として、気仙沼市立南瀬小学校教諭の阿部正人氏がそれぞれ発表された。エコパークを活用したESDの推進から、ESD・SDGsの国際連携、無形文化遺産のある地域の取組、高等学校SSH校の挑戦、ドローンを使った教材開発など、視点は異なるものの、ESD研究の多彩な側面を包括した報告となった。当日は、東北地方を中心に70名の参加があったが、様々な興味関心から集うESD学会の会員の期待に沿うことができたと考える。

文責：市瀬智紀（宮城教育大学）

### 世界農業遺産「大崎耕土」の価値の共有に向けた取組

**価値の共有① 世界農業遺産ツーリズムの展開**

大崎耕土の多様な地域資源を「見える化」、「ストーリー化」し、交流人口の拡大に向けた体験型メニューの作成等による「ゆとり滞在型」ツーリズムを展開

**価値の共有② 農業遺産のストーリーをつなぐツーリズム拠点**

ヒト、モノ、マチをつなぎ、地域内への回遊を促すゲートウェイとして、世界農業遺産ブランドの発信の場として、7月5日に大崎市の市街地にオープン

**価値の共有③ 世界農業遺産認証制度の創設**

「大崎耕土」の価値を伝え、持続可能な営みに向け、農産物産地及び生物多様性配慮等を総合認証する全国初の認証を今年度から開始

**価値の共有④ 「世界農業遺産副読本」の制作**

「大崎耕土」を築きあげた先人の知恵を次世代に継承し、地域への誇りの醸成と理解促進

令和2年度から、大崎地域（1市4町）の小学校3～6年生の全生徒に配布し、学校教育で活用

18

### 只見小学校 6学年 只見学（ESD・海洋教育）ストーリーマップ

「只見町の将来を担う～海とつながり、世界と結びつく～」

SDGsの目標

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

只見町ってどんな町  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

海の見える課題と  
海洋教育  
海の見える課題と  
海洋教育  
海の見える課題と  
海洋教育

SDGsの目標  
目標7「エネルギー」  
目標8「働きがいと経済成長」  
目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」  
目標10「人や国の不平等をなくそう」  
目標11「住み続けられるまちづくりを」  
目標12「持続可能な消費と生産」  
目標13「気候変動に具体的な対策を」  
目標14「海の豊かさを守ろう」  
目標15「陸の豊かさも守ろう」

目指す子ども像  
只見町の歴史を知り、誇りを持って、世界とつながり、未来を担う子どもを育てたい。地域を誇りに思える子どもを育てたい。世界とつながり、未来を担う子どもを育てたい。

深める  
広がる  
つなぐ

5月 第一に集って伊予灘回廊の散策  
伊予灘回廊の歴史を知ろう  
伊予灘回廊の自然を知ろう  
伊予灘回廊の文化を知ろう  
伊予灘回廊の産業を知ろう  
伊予灘回廊の未来を知ろう

6月 八十嵐を眺めて只見から海へ  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

9月 身近な数分で只見を見てみよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

10月 学んだことを発信しよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

11月 学んだことを発信しよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

12月 学んだことを発信しよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

1月 学んだことを発信しよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

2月 学んだことを発信しよう  
只見町の歴史を知ろう  
只見町の自然を知ろう  
只見町の文化を知ろう  
只見町の産業を知ろう  
只見町の未来を知ろう

## 日本ESD学会第4回近畿地方研究会（オンラインシンポジウム）開催のお知らせ

日本ESD学会第4回近畿地方研究会を下記の要領にて開催します。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）禍をふまえ、開催の日時や方法、テーマ等を再検討しました。

Zoomを用いたオンラインシンポジウム（下記）と、研究発表を含む会（年度内に別途）とに、分けて開催します。

◆日時： 2020年7月19日（日） 13:00～16:30頃

◆テーマ： 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とESD地域学習  
－「With コロナ」の経験を共有し「Post コロナ」に活かそう－

◆開催者： 日本ESD学会第4回近畿地方研究会実行委員会、日本ESD学会、人文地理学会地理教育研究部会（第50回部会）、奈良地理学会、奈良教育大学（予定）

◆趣旨： コロナ禍によって学会・研修・研究会等の多くが中止・延期になり、教育実践の省察や対話・議論の機会が不足している状況にある。そこで本シンポジウムでは、ここまでの「With コロナ」の状況下における地域学習の実践経験を共有したい。また、これらの貴重な経験を「Post コロナ」のESDに活かす方途を探りたい。

◆参加費： 無料（日本ESD学会会員、人文地理学会会員、奈良地理学会会員、奈良教育大学構成員のみ参加できます。事前申込制）

詳細および申し込みについては、学会ウェブサイトをご確認ください。

文責：河本大地（奈良教育大学）

## 日本ESD学会第3回大会開催のお知らせ

日本ESD学会第3回大会は成蹊大学（東京都武蔵野市吉祥寺北町）を会場に、2020年9月19日（土）、20日（日）に第2回ユネスコスクール関東ブロック大会・日本ESD学会第3回大会と、連続日程で開催の予定です。プログラム、発表・参加申込等の詳細は決まり次第、本学会ウェブサイト等でお知らせいたします。多数の参加をお待ちしています。

なお、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大が続いています。第3回大会につきましては、状況により中止または延期の可能性も考えられます。変更がある場合は学会ウェブサイトでお知らせしますので、チェックをお願いいたします。

文責：中澤静男（事務局長）

2020年4月4日(土)	第4回編集委員会(メール審議)
4月10日(金)	編集委員意見締切
5月6日(水)	編集委員への通知
5月7日(木)頃	再査読結果通知、必要に応じ修正要求 印刷会社との事前交渉開始
6月8日(月)	すべての最終原稿を収集 印刷会社との調整
7月31日(金)	PDF版完成、会員に公開 印刷物購入希望受付開始
8月15日(金)	印刷物購入希望締切
8月31日(月)	事務局へ印刷物納入

### 「若手の会」よりお知らせ

#### ◆「若手の会」とは

ESDをテーマに活動している主に35歳以下の若手会員(研究者・実践者)らが交流することでお互いを高め合い、ESD研究の魅力や重要性を見出し発信していくことを目的とした会です。

同世代のつながりを深めることを通して、①若手のキャリア形成を支援し、次代のESDの担い手としての力量を向上すること、②若手の実践と研究の往還をすすめること、の2点をねらいとした活動を計画しています。

ESDが一時の流行となってしまうことがない

よう、10年後、20年後に今の若手が日本のESDを担うことができるよう、若手が協働できる場を作り、知見と力量を高めるような取組を実施していきたいと思っています。

2019年8月の第2回大会(宮城教育大学)に併せて『「若手の会」設立記念イベント』を実施し、その後の総会でご承認いただき、正式に始動しました。現在、11名の会員(青山会員・飯田会員・石川会員・垣内会員・神田会員・後藤田会員・近藤会員・白石会員・高橋会員・中谷会員・渡部会員)が運営メンバーとなり、活動を進めています。



#### ◆これからの活動について

設立記念イベントで集まったご意見やアイデア等をもとに運営メンバーで議論し、4月24日(金)に、「第3回大会(東京)」におけるユース企画をはじめとした年間活動計画等について話し合う『若手の会』キックオフミーティング(オンライン開催)を実施しました。今年度は新型コロナウイルス対応のため、全国大会や地方研究会での企画・活動は見通しがもちにくい状況ではありますが、オンラインでの勉強会や若手の実践者と研究者が連携・協働できる仕組み作りなど、今後継続的に取り組める企画を相談・計画しています。

#### ◆運営メンバー募集について

「若手の会」では、上記の活動目的にご賛同いただき、企画・運営に参加していただける会員(35歳以下)を募集しています。運営メンバーにご興味のある方は、参加申込フォームからお申し込みいただくか、メールにてお問い合わせください。

##### 【参加申込フォーム】

<https://forms.gle/wvcVF7P9hvs1Kdmt9>

##### 【お問い合わせ先】

[jsesd.wakate@gmail.com](mailto:jsesd.wakate@gmail.com)



文責：飯田貴也 (NPO 法人新宿環境活動ネット)

#### 事務局からのお知らせ

- ・住所変更等があった場合には、遅滞なくお知らせください。
- ・年度が変わりましたので、2020年度会費を納入ください。納入方法は、学会ウェブサイトの「入会案内」をご参照ください。ご自身の振込状況が不明な場合には、急ぎ事務局までお問い合わせください。

##### (1) 会費納入について

2020年度学会費を未納の方は、日本ESD学会ゆうちょ銀行振替口座に振り込んでください。なお、2年を超えて会費を滞納した会員は退会となることがありますので、ご注意ください。(会員に関する細則第6条)

正会員：5,000円、 学生会員 3,000円、 団体会員 20,000円

- ① 郵便局・ゆうちょ銀行からのお振り込みは、同封の振込用紙をご使用ください。

【口座記号・番号】 00960-5-0311266

【口座名称】 日本ESD学会(ニホンイーエスディーガッカイ)



## ②その他金融機関からのお振り込み

【銀行名】 ゆうちょ銀行

【店名】 ○九九（読み ゼロキユウキユウ）

【店番】 099

【預金種目】 当座

【口座番号】 0311266

【口座名称】 日本 ESD 学会（ニホンイーエスディーガッカイ）

※このゆうちょ銀行口座は会費振り込み専用です。

### （2）学生会員の会費免除の申請について

COVID-19により学生の経済的状況の悪化が報じられています。この状況に鑑みて、希望する学生会員について本年度（2020年度）の会費（3,000円）を免除します。

2020年度の会費免除を希望する学生会員は、必ずメールで事務局（[jsesd.office@gmail.com](mailto:jsesd.office@gmail.com)）に8月末までに申請してください（経済状況を証明する書類などは一切必要ありません）。

なお、既に本年度会費を納入した学生会員で、免除を希望する会員には返金いたします。

### （3）会員情報の変更など

住所、メールアドレス、所属など会員情報に変更がございましたら、日本 ESD 学会事務局までご連絡ください。

### （4）後援や広報に関して

ESDに関する研究会等の開催を予定されている方々、日本 ESD 学会の後援やウェブサイトでの広報を希望される場合は、日本 ESD 学会事務局までご連絡ください。

### （5）地方研究会の開催

現職教員や各地で ESD に関わっておられる会員の方々の研究発表の機会や研修の機会として、地方研究会の開催を歓迎します。開催を計画されている方は、日本 ESD 学会事務局までご相談ください。